

ほん？ほん？

1年2組が算数のたし算の勉強をしていました。

「花が3ほんありました。4ほんふやしました。ぜんぶでなんぼんでしょう。」という問題でした。

「しき $3 + 4 = 7$ 」とみんな書きました。「こたえ 7」まで書いて、「7ほん」という子と「7ぼん」という子に分かれました。初めに答えた子どもは「7ぼん」でしたが、ある女の子なんか訴えるような目で「違う、違う！」。初めに答えた子どもは「だって、問題に『なんぼん』って書いてある。」

「なるほど！！これはおもしろくなってきたぞ！」（私）

というところでチャイムが鳴ってしまいました。残念！！

あとで担任の先生に聞くと、黒板に1ほん、2ほん、3ぼんと書いていき、前に来る数字によって命数が変わすることを説明したそうです。「なんぼん」とたずねられても、こたえは「〇ぼん」とは限らないことも……。先生の悪戦苦闘の様子が目に浮かびました。

コツ、コツ、コツ、コツ

3年1組は国語の学習をしていました。「ありの行列」という単元で、学習が始まって間もないので、難しい言葉の意味を国語辞典で調べていました。これが、とってもいい感じなのです。

「道しるべ」という言葉を調べていました。ペア学習が成立していて、友だち同士の学びあいの様子が見られました。辞典の引き方が苦手な子どももいますが、となりの子がちゃんと教えています。苦手な子もきっとできるようになるだろうなあと思ってうれしくなりました。途中でちょっと脱線して「みそしる」になってしまいましたが、「まあ、ちょっとぐらい遊び心があっていいや。」と思いました。ちょっとぐらい脱線しても、大騒ぎになるわけではありません。「もう、みそしるからはなれなさい。」と言っていた先生も「じゃあ、付箋を貼っておきなさい。」と笑顔で根負け。クラスのなかに温かい空気が流れています。

調べた言葉を辞典のなかに見つけるたびに付箋を貼っていくのですが、どんどん枚数が増えていくので、いい意欲付けになっています。なんでもコンピュータで処理できる時代です。でも、こういう時代だからこそ、こうしたコツコツと積み上げていく経験がとても大切なんだと思いました。

おむすびころりん

先日、ふたば学級で研究授業がありました。教材は「おむすびころりん」という物語です。一文一文、これはだれが言っている言葉なのか、だれがしていることなのかを確かめていきました。そして、おじいさんやねずみになりきって、動作で表現しました。たくさんの先生が来ておられました。ちょっとはずかしかったけれど、それぞれの子もたちが、それぞれのめあてを達成できるよういろいろな工夫のある授業でした。子どもたちも自分なりの表現方法で一生懸命活動することができました。ずっと続けてきた詩の音読の練習効果が表れて、上手に音読もできました。

よかった。よかった。